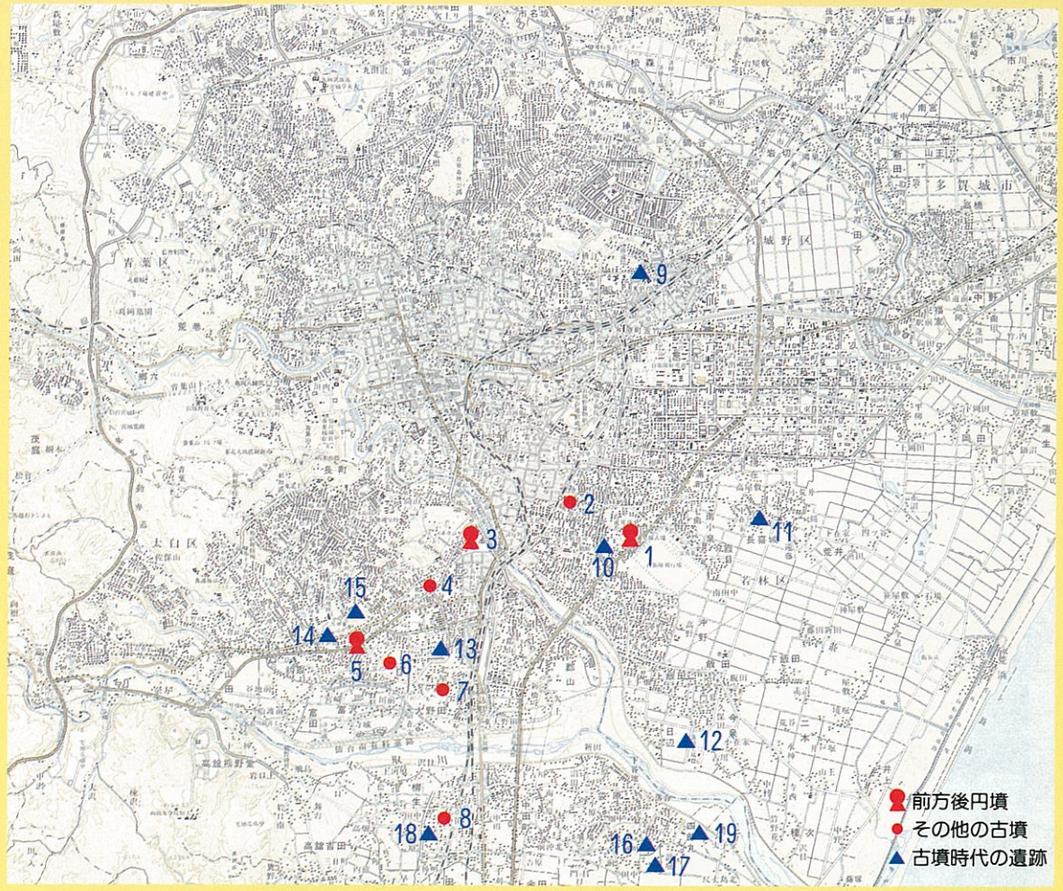
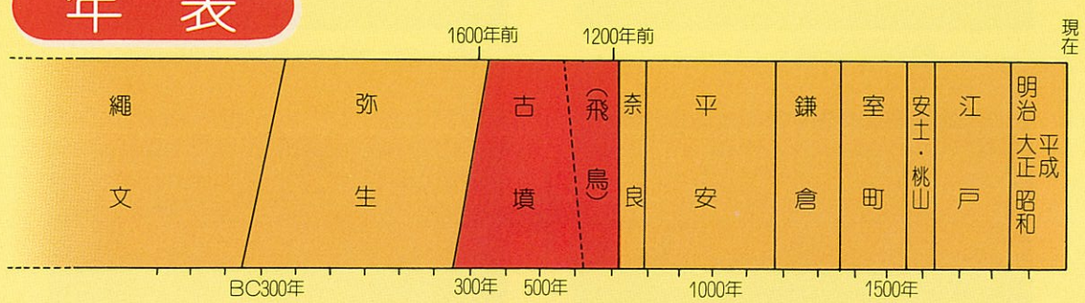
仙台市内の古墳時代の遺跡マップ



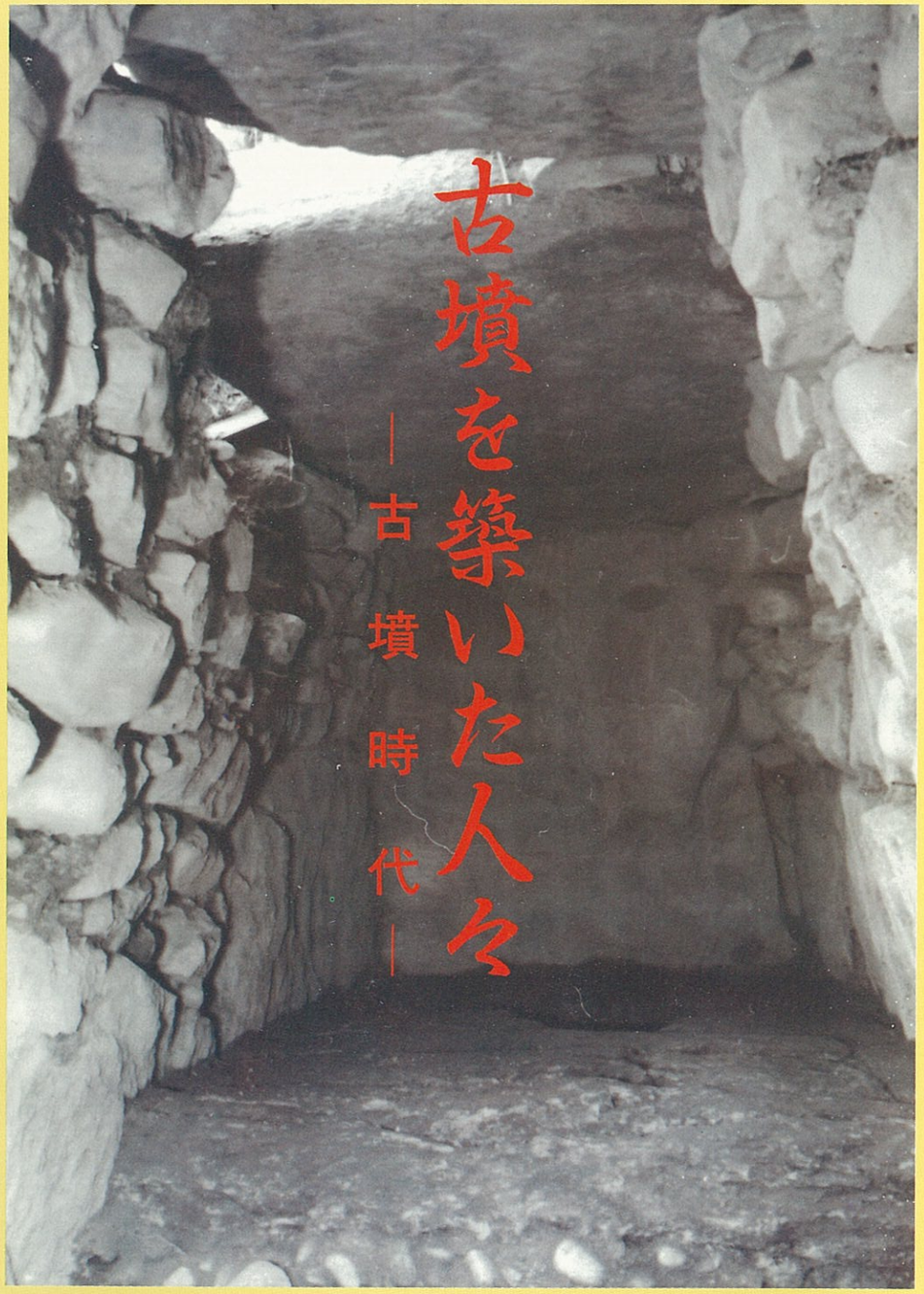
1	遠見塚古墳	5	裏町古墳	9	大蓮寺窯跡	13	富沢遺跡	17	四郎丸館跡（しろうまるたて）
2	法領塚古墳	6	教塚古墳（きょうづか）	10	南小泉遺跡	14	富沢窯跡	18	栗遺跡
3	兜塚古墳	7	王ノ壇古墳	11	中在家南遺跡（なかざいけみなみ）	15	土手内遺跡	19	昭和北遺跡
4	一塚古墳（ひとつか）	8	安久諏訪古墳	12	高田B遺跡（たかだ）	16	戸ノ内遺跡		

年表



表紙
法領塚古墳（若林区一本杉）
横穴式石室（よこあなしきせきしつ）

■ 第21回文化財展パンフレット
■ 発　行　仙台市教育委員会文化財課
仙台市青葉区国分町三丁目７－１
（TEL 022-214-8893）
■ 発行日　平成６年12月10日
■ 印　刷　㈱共新精版印刷



古墳を築いた人々
―古墳時代―

仙台市教育委員会

古墳時代とは

今からおよそ1700年前、日本各地に土を高く盛った巨大な墓が造られるようになります。これらは各地の豪族の墓と考えられ、「古墳」と呼ばれています。古墳が造られた時代、約400年間を「古墳時代」と呼んでいます。

仙台平野においても、全長約110mの前方後円墳である遠見塚古墳など、大小さまざまな古墳がこの時代に造られました。

古墳の最もよく知られた形である前方後円墳は畿内地方の強力な政治権力との関係を示すものとされています。これまで、ムラやクニに分かれていた日本がひとつの大きな国家として統一されていく時期が古墳時代です。

人々のくらし

古墳時代になると人々のくらしのようすも大きな変化を迎えます。

大陸との交流から得られた新しい技術や道具が広く普及し、弥生時代より広く田や畑が営まれるようになりました。

また、それまで各地方により、特色のある土器が作られていたのが、全国的にほぼ同じような形で文様のない土器（土師器）が作られるようになり、住まいである竪穴住居の形も方形の形に変化します。

※稲葉和也・中山繁信『日本人のすまい／住居と生活の歴史』㈱彰国社を参考に作成

古墳とは

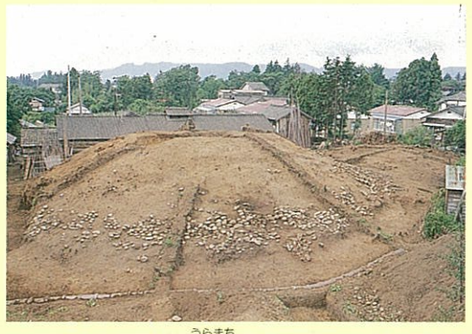
土を高く盛り、その中に棺を納めた墓で、その土地の有力な豪族などが葬られた墓をいいます。形には前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳などがあります。形、大きさは葬られた人の社会的地位を示しているといわれています。

棺を納めた主体部は、穴を掘って直接棺を埋葬したものや、石室を造って棺を入れたものなどがあります。墳丘の表面には玉石を敷いたものや、墳丘上や周囲に埴輪を立て並べたものなどがあります。墳丘の周囲には周溝とよばれる大きな堀が掘りめぐらされています。

また、遺体が納められた棺の中には死者を送るための土器、刀、首飾りなどの様々な副葬品が納められました。

遠見塚古墳

遠見塚古墳（木棺を納めた所）



裏町古墳

裏町古墳（棺を納めた竪穴式の石室）

古墳の施設

円筒埴輪
（大野田５号墳出土）

朝顔形埴輪
（大野田５号墳出土）

副葬されたもの

鏡（乳文鏡）
（裏町古墳出土）

竪櫛
（遠見塚古墳出土）

人々のくらし

まつり

人々は祝い事、弔い、またさまざまなことについての儀式や、祈りや占いの行事を行っていたと考えられます。「まつり」の時には手づくねの小型土器や神器を模造した石製品などの祭祀用具が使われたようです。

まつりに使われた土器の出土しているようす
（遠見塚古墳）

鏡や剣などの神器を模造した石製品
（南小泉遺跡出土）

生産

大陸との交流により、鉄を作ったり、土器を窯で焼く技術などが伝えられ、様々な生産技術が大きく進歩しました。この地方でも木製の農具に鉄製の刃先がつけられるようになりました。この新しい農具により、田や畑の開拓が進んでいきました。また、それまでの縄文土器以来の素焼きの土器とはちがう、窯で高温で焼かれた須恵器とよばれる硬い器が使われ始めます。

水田跡（富沢遺跡）

畑として耕した跡（大野田地区）

埴輪を焼いた窯跡（富沢窯跡）

（資料提供 古窯跡研究会）

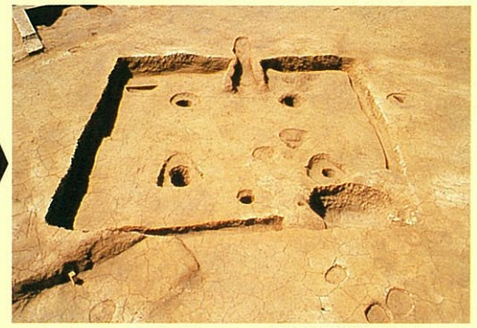
窯で焼いた須恵器とよばれる新しい土器
（大蓮寺窯跡出土）

（資料提供 古窯跡研究会）

住まい

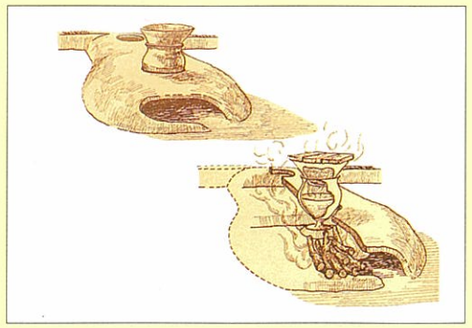
一般の人々は竪穴住居に住んでいました。古墳時代の中頃になるとそれまで、住居の中央にあった炉を使う生活から、壁際に作られたカマドを使う生活へと変化します。これは家の中に現在のような台所のような場ができあがってきたことを意味しています。

炉のある住居（戸ノ内遺跡）
（黒い部分が炉）



カマドのある住居（南小泉遺跡）

竪穴住居の復元図



カマドを使っているようすの復元

土器

食器や調理のしかたは、カマドが普及したことにより大きく変わり、蒸して食べることが行われるようになりました。煮炊き用の胴の長い甕や甑とよばれる蒸し器が使われるようになりました。

食器には現在のごはん茶碗のような土器も現れ、一人ひとりが自分の器を使って食事をするようになったようです。

古墳時代初め頃の土器（昭和北遺跡出土）

個人用の器が多くなっている
古墳時代中頃の土器（土手内遺跡出土）

仙台市内の古墳と古墳時代の遺跡

市内には古墳は約50基の古墳をはじめとして、当時の集落跡など約60ケ所の遺跡が知られています。その一部を紹介します。（番号は８ページのマップと対応しています。）

戸ノ内遺跡の方形周溝墓⑯（４世紀）

兜塚古墳③（５世紀）

王ノ壇古墳⑦（５世紀）

法領塚古墳②（７世紀）

安久諏訪古墳⑧（７世紀）

昭和北遺跡の竪穴住居跡の土器出土状況⑲
（４世紀）

南小泉遺跡の竪穴住居跡⑩（５世紀）

栗遺跡の調査風景⑱（７世紀）